

市制施行 60 周年・結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 10 周年記念

**平成26年度**  
**第7回新川和江賞**  
**～未来をひらく詩のコンクール～**

**と き:平成27年2月8日(日)**

**ところ:結城市民情報センター3階多目的ホール**

## ごあいさつ

結城市は、ユネスコ無形文化遺産の結城紬をはじめとする伝統的な地場産業と、古くから受けつがれた文化が根付いている歴史と文化のまちと言われております。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子供達です。「新川和江賞 未来をひらく詩のコンクール」は、詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与することを目的として、平成20年度に、結城市民情報センターとゆうき図書館の開館5周年を記念する事業として、詩人で名誉市民でもある新川和江先生の名を冠して創設され、今年で第7回を迎えます。

本年度も、市内在住・在学の小・中・高校生を対象に、詩を募集いたしましたところ、2,114点という多くの作品の応募をいただきました。これもひとえに、関係者の皆様の深いご理解と、詩を愛する気持ちの賜物と感謝いたしております。

ご応募いただきました作品は、いずれも力作ぞろいで、選考には大変ご苦労されたと同っております。受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、惜しくも入選を逃された皆様も、今後ますます詩に関心を持たれ、来年もご応募いただきますことを期待しております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日を過ごされますことを願い、ごあいさつといたします。

平成27年2月8日

結城市長 前場 文夫

## 詩を書くことは・・・

〈未来をひらく詩のコンクール〉が、本年ここに七回目を迎えることが出来ましたことは、わたくしの大きな喜びでございます。ここまで育てていただきました関係者の方々と、作品をお寄せくださいました小・中・高の皆さんに、あつくお礼を申しあげます。

昨年十一月九日、市制六十周年記念の式典に参列させていただく光栄に浴しました。この先も七十年八十年、市民の皆さまと紡いで行く結城の歴史の中に、このコンクールも織り込んでいただけるだろう、という思いが一瞬間きまして、胸が熱くなりました。小・中・高の皆さんもそれぞれ立派に成人なさって、ふるさと結城をさらに発展させる力となってくださることを、固く信じております。

鉄とコンクリートと合成樹脂で造られた都市に住む生徒さんたちの詩と、同じ年齢層の結城の皆さんの詩が明らかにちがうところは、大まかに言って二つあります。結城の皆さんの詩には、ひとつ屋根の下に住む三世代の家族のあたたかさ、種子を蒔けば必ず答えてくれる土をはじめとして、豊かな自然が身近にあることです。本年度の最優秀作品、ながたみおさんの「やさい」をごらんください。〈お家のはたけ〉でとれた野菜の名を、並べて書いているに過ぎない詩、とも言えるでしょう。けれど、名を呼び、書きしるすことで、古い言葉で申せば、ながたさんと野菜との間に、つよい〈ご縁〉が生じたのです。

ものの名を呼ぶことから、詩がはじまり、愛がはじまります。詩を書くことは、人たちをはじめ、すべてのものや世界に対して〈心をひらく〉ことで、今まで気付かずにいた〈新しい自分〉を発見することでも、あるのです。このコンクールのためだけでなく、皆さんが、これからも詩を書きつづけ成人してくださることを、心から願ひまして、ご挨拶とさせていただきます。

平成27年2月8日

新川 和子

# 次 第

日時 平成27年2月8日(日)  
午後2時より  
場所 結城市民情報センター  
3F多目的ホール

## ●オープニングセレモニー

新川和江氏作品 「花の名」の群読（優良賞 22名）

## ●表彰式

1 開式のことば

2 主催者あいさつ

3 来賓あいさつ

4 表彰

5 第7回受賞作品朗読

新川和江賞（1名）

優秀賞（8名）

優良賞（22名）

6 新川和江氏による講評

7 閉式のことば

## ●受賞者氏名

### ☆新川和江賞（最優秀賞）

やさい

山 川 小 学 校    2年    なが永    た田    み美    お穩

### ☆優 秀 賞

カタカナ

結 城 小 学 校    1年    うめ梅    やま山    しん真    のノ    すけ介

スイッチオン

城 西 小 学 校    2年    す須    とう藤    けい啓    た太

弟

結 城 小 学 校    4年    ほん本    だ田    る留    い唯

ピノキオ

結 城 西 小 学 校    6年    あお青    き木    かず万    き記

自然のハーモニー

結 城 中 学 校    1年    うち内    だ田    か花    のん音

生きる

結 城 中 学 校    2年    たに谷    ぐち口    ふた双    ば葉

あの子

結 城 南 中 学 校    2年    や矢    ぐち口    まな愛    み実

あの夏の夜に

結 城 第 二 高 等 学 校    2年    みの美    わ輪    あ明    き紀

☆優良賞

ゆうゆう

結城小学校 1年 小林 優月

おてんぐさま

結城小学校 1年 廣田 湊

よるのおそら

上山川小学校 1年 梅澤 瑚子

おにぎり

江川北小学校 1年 齋藤 ひなた

あさがお

江川南小学校 1年 鈴木 碧惟

夏の音

山川小学校 2年 山口 瑠捺

いそ遊び

城南小学校 3年 坪山 あんな 杏奈

家族の手

城南小学校 4年 池田 ゆきな 雪花

夏の夜

絹川小学校 4年 岩瀬 ひなこ 白菜子

夏の空

結城西小学校 5年 櫛淵 ひかり 日花里

しゃぼん玉にも夢がある

結城西小学校 5年 熊谷 ゆき 優希

自転車

城西小学校 5年 稲葉 はやと 駿翔

ねこ

絹川小学校 6年 伊関 るい 琉唯

海のキラキラ

絹川小学校 6年 間中 きりこ 桐子

歴史って大切

結城中学校 1年 菅谷 りんな 琳菜

筑波山

結城東中学校 1年 野呂瀬 ゆか 優花

風

結城南中学校 1年 生井 ゆずか

みかんのよう

結城東中学校 2年 田村 あゆみ 歩久

本の世界

結城東中学校 2年 橋本 ゆうか 悠可

人生の主演

結城東中学校 3年 宮田 わかな 和佳奈

心の仮面

結城南中学校 3年 赤松 ゆういち 佑一

孤独な鳥

結城第二高等学校 2年 小平 あみ 亜美

## 新川和江賞

### やわら

山川小学校 二年 永田 美穂

みどりのはっぱはこつこつまれて長いひげがのびている。こつ  
もろこつ

つやつやとげとげしているなす

おなじかたちばかりの※大は

みどりのえだにまっ赤になっっているよま

よいしょとぬいたらピンとまっすくでまっ白いねぎ

よいしょとぬいたらゴロゴロとつながっているじゃがいも

おなじ色のはっぱとかくれんぼしている。ローマン

土の上でゴロゴロしているかぼちゃ

秋になったらいっぱい木にみのるゆず

みんな家のはだけでとれるやさいたち

※選者註「大は」…青リンの昔葉

### 短評 新川和江賞「やわら」

なんと、迫力のある作品でしょう！絵で言えば、水彩画ではな  
く、油絵。それも絵の具をたっぷり含ませた絵筆に力をこめて、  
ほかのことなど何も考えず、いっしんぶんりに描いた絵です。や  
さいは言葉を持ちませんから、ひとつひとつのやさいに代って、  
自己紹介をこつあげてみることに、書こうと思います。

よく読んでみますと、食べたらいしかったとか、シヤリシヤ  
リ感がすばらしかったとか、苦かったとか、自分が感じたことを、  
みおさんは、ひとつも書いていません。でもそれが、十分感じと  
れる表現のふしぎ。やさいたちを、たねからまいて育てたお父さ  
んやお母さんのことも、書いてはありませんが、目に見えるよう  
に、読者は感じとることができます。うれしいとか、かなしいと  
か、自分の気持ちを書くのが詩だと思われています。それを書く  
と、詩がうすまってしまうことが多いですね。さういって一行、  
すばらしい仕事をする。家のほだけくへの敬意と感謝をこめた言  
葉をそえているところが、おみごと。

## 優秀賞

### カタカナ

結城小学校 一年 梅山 真ノ介

きょうおかあさんとカタカナの  
かきかたをれんしゅうしたんだ  
そしたらねもじのなかに  
ちがうもじがかくれてたんだ  
モのなかには、エとニがいたよ  
ホのなかには、ハがいたよ  
ラのなかには、フがいたよ  
ルのなかには、ノとシがいたよ  
力のなかには、ノがいたよ  
もじは、かくれんぼのめいじんだね  
ぼくもかくれんぼがしたくなったよ

### 短評 優秀賞「カタカナ」

言われてみると、「ほととじ」そうね、と私もこの詩を読んで、  
たのしくなりました。昔、むずかしい漢字の部分をとって、かん  
たんに書けるカタカナをつくり出した人も、きっと、しんのすけ  
くんやお母さんのように、たのしみながらつくったのかもしれま  
せんね。〈もじは、かくれんぼのめいじんだくは、しんのすけくん  
ならではの表現。漢字を習うついななめいじのひついの文字の中に、  
もっとたくさんの物が、かくれてるのを見つけて出すことができ  
ますから、おたのしみ。〉

## 優秀賞

### スイッチオン

城西小学校 二年 須藤 啓太

「ずずしくなったらね。」  
ミンミンミンミンミンミンミンミン  
ぼくは、ドキドキしてきた。  
今年の夏の日ひょう、ほじょなし自てん車にのれるようになるじよ。

ジージージージージー  
ほじょつき自てん車はラクラク、スイスイ。  
ミンミンミンミンミンミンミンミン  
ジージージージージー  
なのに、何がたりないのかな。  
まどから風が入ってきた。  
外を見ると、

お日さまがあかるい元気なかおでぼくを見てひまわりが風にのってぼくにうたをうたう。

くもがぼくのほじょなし自てん車に見えた。

ミンミンミンミンミンミンミンミン  
ジージージージージー  
カナカナカナカナカナ  
「あ、ひぐらしが鳴いた。」

お日さまやひまわりやくものおうえんで、  
ぼくのスイッチがオンになった。

「そろそろ行くよ。」

ぼくは、青いヘルメットをよういじつ、  
げんかんのドアをあけた。

### 短評 優秀賞「スイッチオン」

「ちょっと、しずかにして」とお母さんから苦情が出そうなのに、  
そうぞうしいところもある詩ですが、なにしろこの夏の間、  
ほじょなし自てん車<を乗りこなそうという計画がありますから、  
けいたくんは、これ以上ないというくらいに、こつらんしている  
んですよね。>お日さまやひまわりやくものおうえんで、  
というのですから、にぎやかになるのも当然です。」そろそろ行く  
よ「スイッチオン。カッコイイ詩の結び方をしています。」

## 優秀賞

弟

結城小学校 四年 本田 留唯

弟の名前は

「いっしん」 一才六ヶ月だ

起きている時は

一日中「チヨ」「チヨ」動き回っている

「散歩に行こうよ」と言うとき

帽子を持ってきて

お気に入りのサンダルをはこうとする

右も左もまちがえているし

全然はけていない

だけど自分でやりたがる

はけないまま歩こうとする

なかなかの自信家だ

綿棒で耳をくすぐると

あっという間にねむった

静かだ……

三時間ほど風ねをすると

ひとりで階だんをおりてくる

何やらブツブツひとり言をいうんだよ

えん筆で

ぼくのノートに 落書きした

「コラァッ」と おこったけど

へらへら笑って

今度は ゆかに グチャグチャ書いた

まだ小さいから しかたないなー

本気で おこれないよー

## 短評 優秀賞「弟」

小さなからだに、新しい生命いのちがはちきれそうに つまった、へいっしんくんくんの動作どうさが、お兄さんの愛情のこもった目でとらえ、じつにいきいきと描き出されています。へ一才六ヶ月くだと、もうこんなことも自分でしようとするのかと、とりわけ二連の各行に注目しました。いろいろいたずらをされても、へまだ小さいからしかたないなーへ本気で、おこれないよーくとため息をつく終連にも、本田くんのお兄さんぶりが發揮はつはいされていて、たのましく思いました。

## 優秀賞

### ピノキオ

結城西小学校 六年 青木 万記

ピノキオは、  
うそをつくと  
鼻がのびる。  
ニユースを見ていると、  
ネクタイをしめた  
大人の人たちが、  
うそをいつている  
らしい。  
人間もピノキオと  
同じなら、  
鼻の長い  
大人が、  
いっぱい、  
いるんじゃないかな。  
ぼくは、  
鼻の長くない大人に  
なりたい。

### 短評 優秀賞「ピノキオ」

この作品には、詩にとって大切なユーモアの精神があります。ユーモアというと、おもろおかしいことを言っておどけたり、笑ったりすること考えがちですが、そうではありません。知性の裏付けがないと、ユーモアはつくり出せません。大人の社会を批判するにも、このようなかたちをとると、鼻の長い人がそろそろ歩いている図が浮んで来て、思わず笑ってしまいます。青木さんは、だいじょうぶ。鼻の長くない大人になれますよ。

## 優秀賞

### 自然のハーモニー

結城中学校 一年 内田 花音

虫の声もない静かな朝  
ただ一人  
きれいな音色を奏でながら  
美しく流れる川  
川のようにきれいな心に  
私はなりたい

葉が目覚めだした  
美しい川の音色とハモるように  
話し出す葉たち  
素直に話せる葉たちのように  
私はなりたい

川も葉も虫も起きはじめ  
ピアノのような美しい音色の川  
それに重なり話す葉  
さらに虫たちの歌も重なりだした  
みんなで自然のハーモニーを  
奏でだした  
川や葉や虫たちのように  
みんな協力できる人間に  
私はなりたい

### 短評 優秀賞「自然のハーモニー」

静かな田園風景の中で、生まれ、育った人でなければ書けない詩で、私も読みながら、きれいに澄んだ川のほとりを、歩いていく心地になりました。

〈葉が目覚めだした〉といきなりイメージが転換する二連目の書き出しが、清新な気分を詩の中に導入しています。文の構成上の難を言えば、一連二行目の「ただ一人」が、次行にかかっているのか、散歩している自分にかかっているのか、読者は迷いますので、もう工夫してみてください。

## 優秀賞

### 生きる

結城中学校 二年 谷口 双葉

なんで僕は生きているのだろう  
誰に頼まれた訳でもなく  
自分で望んだ訳でもなく  
なんで僕は生きているのだろう  
自分が幸せになりたいからか  
人を幸せにしたいからなのか  
わからないけど  
答えがでないけど  
生きていたい  
死にたくない  
どんなにつらいことがあっても  
どんなに人に馬鹿にされても  
何も考えず生きていたい  
精一杯生きていたい  
ガムシヤラに生きていたい  
長く生きれば生きるほど  
わからないことがわかるかもしれない  
でない答えもできるかもしれない  
だから生きる  
僕は最後まで生きることをやめない  
僕は最後まで死ぬことを考えない  
どんなに汚れてもいい  
どんなに傷ついてもいい  
僕は生きる

### 短評 優秀賞「生きる」

なぜ生きるのかは、なぜ死ぬのかと同じ重みを持った、人間が一生かけて問いつめる哲学的な主題です。深く考えずのんきに一生を送る人もいますが、いじめを苦にして若い命をみずから断つてしまう同世代がいたりすると、どうしても悩んでしまいますよね。

でも生きる。どんなことがあっても生きて行く。最後に一行、あれこれ考えている前文をきっぱり切り放して、決然と置かれた「僕は生きる」に感動しました。使い古された言葉なのに、美しい、と思いました。生きてください。



## 優秀賞

### あの夏の夜に

結城第二高等学校 二年 美輪 明紀

あの日見た花火は  
今もまぶたの奥に焼きついている

パッと暗闇から浮かび上がった  
君の綺麗な横顔と一緒に

綺麗だねと君は言うけど  
不器用な僕はただ頷くことしか出来なかった

あの時何か答えていれば  
僕らの関係は変わっていたのかな

もし戻れるのならもう一度  
あの花火の夜をやり直したい

### 短評 優秀賞「あの夏の夜に」

同じように花火の夜の情景をうたった詩が、昨年度も優秀賞に選ばれています。昨年度は一年生、この作品は二年生で、学校も同じですので、同一人の形式を変えての応募かと読み較べてみましたが、ペンネームはみとめていないコンクールですので、別人であるらしい。まあ、花火の夜というのは、青春の人たちにとっては、忘れがたいデイトの場所でもありますので、すてきな詩になっているこの作品も、優秀賞に選ばせて頂くことにしました。

## ゆゆう

結城小学校 一年 小林 優月

ゆゆうはね パンダのぬいぐるみ  
 おにいちゃんが うえのどうぶつえんで  
 かってきてくれたの  
 わたしのなまえのかんじをとって  
 「優優」って つけたんだ  
 ゆゆうはね いつもいっしょだから  
 すべよこれちゃうの  
 でも あらうとふわふわになつて  
 とつてもきもちがいいんだ  
 ゆゆうはね わたしのぼうしのなかで  
 おひるねするの  
 すっぽりはいって すぐくわいいんだ  
 ゆゆうはね おさかながだいすきな  
 ほっかいどうのくまみだいな  
 ゆゆうをね じーっとみているよね  
 いますべ ういぎょうだよ  
 おとうさんがね まよなかに ゆゆうが  
 あるいていたよといったけれど  
 ほんとうかな ほんとうかな  
 ゆゆうとおしゃべりしてみたいな  
 ゆゆうはね わたしのだからものなんだ  
 いっまでも いっしょだよ  
 だいすきだよ ゆゆう

## おてんべさま

結城小学校 一年 廣田 湊

「おてんべさまがまいります」  
 おてんべさまがやってきた。  
 ほくとおとうとは、いそいそとにらる。  
 カランカロン、カランカロン  
 くるいひげのおてんべさま。  
 ちやいろのひげのおてんべさま。  
 よこには、はかまのおじさんたち。  
 ほくとおとうとは、あたまをさげぬ。  
 「やあ、おはらいだ」  
 あたまのうえを、ながーいかたなでスースーしてもらおう。  
 おとうとは、ニクニクうねいそう。  
 「かみさまのおまんじゅうだよ」  
 はかまのおじさん「、ゆでまんじゅうを、まらう。  
 「よし、なつまつりのはじまりだ」

優等賞

おんがら

上山川小学校 一年 梅澤 瑚子

おつきなま

ひとつ おそろいじうかんでる

おほしなま

いっぱい かぞえきれないよ

ながれぼし

いっしゅん そんなにみられない

あつ、いっちやった

だれかとおにっこしているのかな

おおきいおほしさま とりたいよ

はじごをのぼって

それをとれたらだからものにしよう

おしせいせえ

まほつをかけて

よるのおそろい入とびたいな

優等賞

おじきり

江川北小学校 一年 齋藤 ひなた

おかあさんの にぎったおにぎり

ほかほか ほかほか おいしいな

おおきな てでにぎった おにぎり

ちいさな てでつかんで ぱくり

きょうの なかみは なんだろな

おばあちゃんの にぎったおにぎり

あちあち あちち おいしいな

おばあちゃんの にぎったおにぎり

たべたら ほかほか うれしいね

こころも ほかほか ありがとう

## 優良賞

### あむがお

江川南小学校 一年 鈴木 碧惟

まず、つちに、たねをまいた。  
まいにち、めがでないかなと、のぞくぼく。  
しばらくすると、めがかおをだした。  
ぼくは、おもわずにっこり。  
うれしくて、えにっきをかいた。  
またしばらくすると、こんどは、つるがのびてきた。  
しちゅうに、クルクルと、えんをえがくようにひっしま  
きつく。  
まいにち、みずをあげながら、おおきくなあれ、はなをた  
くさんさかせてねと、はなしかけた。  
またまたしばらくすると、やっとはながさいた。おおきく  
てきれいな、むらさきのはな。  
あさはやくにしか、かおをみせてくれないぼくのかわいい  
はな。  
またあしたも、かおをみせてね。

## 優良賞

### 夏の音

山川小学校 二年 山口 瑠捺

あつい夏  
たいようぎらぎら  
せみはミンミン  
かはプーンチク  
あせはポトポト  
ふくはベタバタ  
のどはからから  
むぎ茶ゴクゴク  
水はキラキラ  
外はむしむし  
エアコンひえひえ  
プールでバシャバシャ  
おねつでクラクラ  
いろんな音おもしろい

## 優良賞

### いそ遊び

城南小学校 三年 坪山 杏奈

ゴツゴツした岩の間に何かが見えた  
カニだ

小さいけれど、ちゃんとアツをぶいている  
つかまえようとしたりけど、  
右へ左へにげてしまうよ

しおだまりをのぞくと

イソギンチャクがゆらゆらと手をぶって、  
カニとこあいさつをしているみたい

見たこともないまき貝が、ゆっくゆくと  
歩いてる

しおだまりの生き物から私を見たら、  
きつときょうりゆうみだいに見えるのかな？

## 優良賞

### 家族の手

城南小学校 四年 池田 雪花

ねむる時、お父さんの手をにぎってみて  
気づいた

お父さんの手はわたしをねむくさせる手だ  
それで、よく考えてみたら・・・

おなかがいたい時、お母さんがさすって  
くれるといつのまにかいたみがとれる  
お母さんの手はわたしのいたみをとって  
くれる手だ

お兄ちゃんの手はとても安心する手  
こわい時、お兄ちゃんと手をつなぐと  
ほっとする

家族の手は特別な力を持っている  
わたしの手も

いつか特別な力を持つのかなあ・・・  
そしたらお母さんが

わたしの手をにぎると元気がでる  
もう十分特別な手だよ  
と言ってくれた

優良賞

夏の夜

絹川小学校 四年 岩瀬 日菜子

夏の夜

きらきら星がちりばめられて、まるでスパンコールみたい。  
色んな星座が集まってパレードしてる。

ああこんな夜は楽しいな。

毎日一番星をさがす。

さそり座のアンタレスは赤く元気がかがやいている。

ことぎのベガは白い星でやさしくゆうがにかがやいている。

夏の大三角が見えたよ。

いくつもの星が集まっているのは天の川。

私は今日も星たちを見る。

優良賞

夏の空

結城西小学校 五年 櫛淵 日花里

夏の空は青色のクレパスでまっさおだ

白いわたぼうしの雲が

大きくなったり小さくなったり

いろいろな空想をさせる

あんなに空想をさせる

あんなに空想をさせる

あんなに空想をさせる

そして時には大きなかたまりになって

大きく大きくふくらんで

黒い黒い雲になって行く

空はとたんに怒り顔

稲妻を光らせて

大つぶの雨を落とす

稲妻の光は

いっしゅんの絵画のように

細かな金色の線を

空にえがく

それはこわくもあり

美しくも見える

夏の空はふしぎだ

優良賞

しゃぼん玉にも夢がある

結城西小学校 五年 熊谷 優希

しゃぼん玉にも夢があるでしょう  
届きそうに届かない夢が

遠い空を泳ぎたいと  
きれいなにじのある所まで行ってみたいと  
そしてふわふわ ふわふわと  
音楽をかなでるように 気持ちよく

しゃぼん玉だけじゃないですよ  
わたしも夢はあるのです  
だれにだってある物なのです

届きそうに届かない夢が  
心の中にキラキラかがやく一つの夢が  
わたしとしゃぼん玉の夢がいつか  
届かないですよ

優良賞

自転車

城西小学校 五年 稲葉 駿翔

ペダルをこいでみた  
ぐいっと体が前に進んだ  
もっともっと こいでみた  
風を感じた すずしくて気持ちいい  
どこまでもどこまでも  
走り続けた  
上り坂 下り坂 じゃり道 あげ道  
いやなこと つまらないこと  
風といっしょにふっとんで  
心も体も とっても軽い  
とまらない とまらない  
はずむ心も こぐ足も  
ペダルをとめて おりてみたら  
なんだか まほうがとけたみたい  
でも楽しかった また乗ってみよう

優良賞

ねこ

絹川小学校 六年 伊関 琉唯

僕は冬がきらいです  
さむくて外で遊べません  
それに外にでると毛の色が白くまのように  
白くなってしまいます  
でもこたつは大好きです

僕は散歩がきらいです  
おおかみのような犬にほえられ  
鳥の便はかけられ  
車にひかれそうになります  
でも友達とかけっこするのは大好きです

僕はお風呂がきらいです  
ねこは人間のように上手におよげません  
それに底が深いです  
下手をしたら死んでしまいます  
でもドライヤーは大好きです

僕は車が大きいです  
大切な友達を失いました  
僕はすごくショックでした  
僕は雨のようなみだを流しました  
僕はなにをすればいいのでしょうか

優良賞

海のキラキラ

絹川小学校 六年 間中 桐子

茶色の砂浜に 白い波が打ちよせる  
波が引く時 海に引っぱられる感じがする  
さらさらな砂が 足を包みこむ  
太陽の光で 海がキラキラした

ごつごつした岩場に 白い波がぶつかる  
飛び散った水が 水面に輪をつくる  
魚 アメフラシ ヒトデ ヤドカリ  
太陽の光で生き物がキラキラした

広がる水平線に船が浮かぶ  
潮風にのってカモメが飛ぶ  
たくさんの人でにぎわう海  
たくさんの笑顔がキラキラした

## 優良賞

### 歴史って大切

結城中学校 一年 菅谷 琳菜

昔の子ども、生活  
小さなことでも  
歴史上には残っている

もしかしたら  
今の私の生活

ごく小さなことも  
ちゃんとした歴史なのかもしれない

そう考えると  
自分にとって

良い日、悪い日があっても  
一日一日をもっと  
大事に、大切に  
生きなくてはならない

## 優良賞

### 筑波山

結城東中学校 一年 野呂瀬 優花

気候で変わる 山の表情

晴れの日

雲一つない水色を背景に  
元気にみんなに キメポーズ！

くもりの日

筑波山は 雲の間に身をかくし  
ひとり静かに 休憩中

雨が降る日

たくさんの雨の中で  
滝に打たれて 修行中

どんな天気にも負けないで  
いつもじっと たえている  
そんな山を見ていると  
私の気持ちも 前向きになる

筑波山 いつも勇気を  
ありがとう

## 優良賞

### 風

結城南中学校 一年 生井 ゆずか

自転車に乗って  
朝の光をあびながら  
田んぼを  
森を  
走りぬけて行く

風がふくたび  
髪がおどる  
風がふくたび  
服もおどる

この景色を見ている私は  
まるで  
風に混じった鳥のようだ

## 優良賞

### みかんのよじり

結城東中学校 二年 田村 歩久

みかんはみんな知ってるよね。  
甘くておいしいみかん。  
でもね、最初はすごくすっぱいんだ。  
大きくなるにつれて少しずつすっぱいなくなっていくんだ。

今、私達はすっぱいかも。  
苦しかったり、つらかったり  
時には人につめたくしたり、いじめたり  
このままじゃだめだ。  
すっぱいままじゃだめだ。  
少しずつ少しずつ甘くなるう。  
人にも優しく、自分にも優しく、  
そして、他の皆も甘くなれるように肥料をあげよう。  
優しさという、大事な肥料。

## 優良賞

### 本の世界

結城東中学校 二年 橋本 悠可

授業の前の読書タイム  
教室の中には33人のページを  
めくる音だけが聞こえる

さあ、本の世界に入ろう

今日の私はヒーローだ  
悪者とたたかったり  
誰かを助けたり  
ハラハラドキドキだ

明日の私は恋する乙女になろう  
誰かを好きになったりして  
胸がキュンとするだろう

チャイムがなった  
現実の世界へもどろう  
1時間目は、なんだっけ？

## 優良賞

### 人生の主役

結城東中学校 三年 宮田 和佳奈

今だにつぼみの桜が並ぶ春  
人に囲まれて楽しそうに笑うあの人  
皆があの人を見ていた  
今の人生の主役はあの人

汗も蒸発しそうな暑さの夏  
手を地面につき悔しそうに泣くあの人  
皆があの人を見ていた  
今の人生の主役はあの人

木の葉のように心もかれ落ちる秋  
人に囲まれて照れくさそうに笑うあの人達  
皆があの人を見ていた  
今の人生の主役はあの人達

つららのように言葉も冷たく鋭くなる冬  
人に囲まれて泣き叫ぶ人と怒鳴る人  
皆があの人達を見ていた  
今の人生の主役はあの人達

その次の日もその次の日も主役はあの人達  
私はまだ待ち続けている  
人生の主役が自分になるまで

## 優良賞

### 心の仮面

結城南中学校 三年 赤松 佑一

私は心に仮面をかぶっている  
楽しい時、嬉しい時、悲しい時  
心は本質を見せない  
本音と建前のこの社会で  
私はどう生きよう

私は心に仮面をかぶっている  
成し遂げた時 失敗したとき  
心は嘘で埋め尽くされる  
陽と陰のこの心を  
私はどう活かそう

私は心に仮面をかぶっている  
だからこそ  
誤ちを正すためのこの道  
私は歩いていこう

## 優良賞

### 孤独な鳥

結城第二高等学校 二年 小平 亜美

僕は鳥  
真っ黒な翼を身にまとい  
美味しい物を探しては羽ばたく  
とても楽しい毎日と、言いたいけど  
人間から見ると  
あいつは孤独な鳥  
汚い翼で  
ゴミを食い荒らす最低な鳥  
そう思われているのだろう  
僕はいつこの世界で輝けるのだろうか  
僕はいつ誰にもバカにされずに  
幸せに暮らせるのだろうか  
そんなことを考えながら今日も僕は生きる

## —新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西条八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩ラ・メール」を創刊。  
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念  
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞  
JR賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。  
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業  
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花」を寄贈。結城紬大使就任。

## —新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

**【目的】** 結城市出身の女流詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

**【募集作品】** 自由題の未発表詩

**【応募資格】** 結城市在住，在学の小・中・高校生

**【選者】** 新川 和江（最終選考）

関 和代

山中 和江

吉田 峰代

### 【経過】

- 平成 16 年 5 月（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催  
（結城市制 50 周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）
- 募集作品：「私（わたくし）が大人になったら」・「私（わたくし）のふるさと」のいずれかを題材とする
  - 応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生
  - 最優秀賞：『わたしのふるさと』  
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校 2 年）
- 平成 21 年 2 月（2009） 第 1 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館 5 周年記念事業）
- 新川和江賞：『あまいみをならしてね』  
海老澤 匡希（山川小学校 2 年）
- 平成 22 年 2 月（2010） 第 2 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：『夏』  
向田 浩哉（結城小学校 5 年）
- 平成 23 年 2 月（2011） 第 3 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：『ランドセル』  
野呂瀬 早紀（結城小学校 1 年）
- 平成 24 年 2 月（2012） 第 4 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：『石』  
藤野 里菜（結城東中学校 2 年）
- 平成 25 年 2 月（2013） 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：『日記詩』  
海老澤 朋代（結城南中学校 1 年）
- 平成 25 年 3 月（2013） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行
- 平成 26 年 2 月（2014） 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：『変わらない日々』  
宮田 和佳奈（結城東中学校 2 年）
- 平成 27 年 2 月（2015） 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：『やさい』  
永田 美穂（山川小学校 2 年）

# —結城市民の歌—

新川 和江 作詞

1. おはよう結城 わたしたちの市(まち)  
むらさきの筑波のみねから  
太陽ののぼる市です  
鬼怒川の流れのほとり  
千年の昔も今も  
娘らがはた織る音の  
高らかにひびく市です  
名にし負うつむぎのふるさと結城
2. こんにちは結城 わたしたちの市(まち)  
旅びとも歴史をたずねて  
おとずれる城下町です  
いにしへの文化の上に  
あたらしい未来をひらく  
ひとびとが心寄せ合い  
すこやかに暮す市です  
かぎりなく伸びゆくふるさと結城
3. こんばんは結城 わたしたちの市(まち)  
はつ夏はあの道この道  
桐の花におう市です  
桑の実にくちびる染めて  
幼い日あそんだ友が  
祭りには胸はずませて  
遠くから帰る市です  
なつかしい灯ともすふるさと結城

ことばはいつ 詩となるのであろう  
猿に噛みくだかれた木の實が  
むろの中で年月を経て酒となるように  
夜ふけに草をしめらせし露が  
あけがた葉末で玉となるように

新川和子

# 花の名

新川 和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつつじー

花の名をいうときには

この春やっど

ひらがなを覚おぼえたちいさな妹が  
やわらかな鉛筆えんぴつで

一字書いては

うれしげににっこりするよつに

わたしは発音はつおんするのです

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そして さくら……

